

報告書

2021年 1月21日

活動実施団体名 大阪市立自然史博物館
責任者名 石田 惣・松井章子・和田 岳
報告書作成者名 和田 岳

1. 活動の名称 テーマ別自然観察会「石桁網のよりかす」
2. 実施日 2020年10月25日（日）13時～16時
3. 実施場所 大阪市立自然史博物館 玄関前ポーチ

4. プログラム等

10月7日に、岸和田漁港から漁船を出してもらい、石桁網漁を行う様子を撮影。その「よりかす」（網にかかった商品価値のない生物等）を引き取ってきた。行事当日まで、博物館の冷凍室で保存。10月23日に解凍。前日～当日午前に会場設営。

10月25日は、12時30分に参加者受付開始。13時からスタッフ紹介と、石桁網漁と「よりかす」についての動画を用いて説明。13時30分から、参加者は6班に分かれて、班ごとに「よりかす」のソーティング作業。種ごとにまとめてもらい、各班の講師や補助スタッフが同定の手伝いや生物の解説を行った。14時30分から、希望者は観察した生物のスケッチ。15時から、見られた生物について、各講師が分野ごとに解説、まとめ。16時終了。

5. 対象・参加人数 申込み138名、当選49名、
参加45名（中学生以上25名、小学生以下20名）

6. 活動の内容・状況・感想

【スタッフ】

室内での実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、換気の良い屋根のある外で実施することにした。場所が広いので、参加者の密集もかなり避けられた。参加者以外の来館者に見える場所だったので、行事のアピールにもなった。

この行事のねらいは、大阪湾で行われている石桁網という底引き網漁でどのようなものが採れるのか、混獲物を中心にその実物を見てもらい、大阪湾にいる様々な生き物について知ってもらう。参加者には底引き網の混獲物を実際に手に取って見てもらった。初めて目にする生き物に驚く人も多かった。身近な海の生物多様性に気づいてもらえたのではないかと考えている。



【太田葉子さん】

今回が二度目の参加となりました。「石桁網のよいかす」は、普段ただ「大阪湾」と捉えている海に、こんな生き物があるのか！とワクワクする行事です。今年は、まるで内臓のようなムラサキハナギンチャクに驚いたり、ウミサボテンやウミエラの形の面白さ、カニ類の種ごとの造形の多様性を知ることができました。

また、後日談にはなりますが、テレビ番組でチヌが出てきた際に小2の息子が「これ前に博物館のよいかすの行事で見たやつや」と言いました。彼は、昆虫や動物が好きではあるものの、感覚的で、それらを言語的・体系的に理解することや記憶することに興味を示しません。それが親として心配になったりしますが、行事を通して体験したこと（チヌを見て触って観察したこと）が彼の中にちゃんと残っていることに嬉しく思いました。

デジタル上では沢山の情報が取れる世の中ですが、実体験として身近な海の生き物に触れられる体験ができることをありがたく感じています。



【中尾茂さん】

小学校6年生の息子と参加しました。親子でとても勉強になりました。めずらしいエイも見ることができ、子どもも喜んでおりました。

コロナ禍の中、多くの行事が中止やリモートになる中、やはり自分の目で身、体験できるということの大切さを改めて実感しました。

【中尾健太郎さん】（小学6年生）

参加して思ったのは、魚などをみんなでより分けたことです。みんなでやる事で楽しかったのもまたよいかすに参加してみたいと思いました。



【河添純子さん】

抽選に当たったので（抽選ってあんまり当たったことがないんです。ラッキー！）午後は大阪市立自然史博物館で『石桁網のよいかす』の観察会。密を避けて、広いテラスで実施されました。

漁師さんが石桁網で捕った獲物のうち、売れるものを取り除いた残り。なので、食べられないもの、まだ小さいもの、壊れたもの...ゴミもたくさん。

海岸でガサガサしたり、地引網をしても見られない、沖の生きものや、深いところにいる貝なんかも見られるのでとっても面白いです。ちょっと臭いがありますが、宝探しみたいです。ウミサボテンもたくさん入ってました。

以上